

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成24年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム
「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」
研究開発プロジェクト

「『仮設コミュニティ』で創る新しい高齢社会のデザイン」

研究代表者 大方 潤一郎
(東京大学大学院工学系研究科 教授)

1. 研究開発プロジェクト名

「仮設コミュニティ」で創る新しい高齢社会のデザイン

2. 研究開発実施の要約

① 研究開発目標

大槌町及び比較対象地である釜石平田運動公園仮設住宅地及び遠野市の仮設住宅地において、各仮設住宅地におけるコミュニティ再形成とコミュニティ活動開始のための基盤づくり（行政・関係公共機関・関係団体の連携体制づくりを含む）、入居初期の住民の心身状態や復興意向の調査、住民共助型コミュニティ活動の試行に向けての住民のエンパワメント、主要な活動を本格実施していく。

② 実施項目・内容

- ・ 各地においてイベントの実施といったコミュニティ活動の支援。
- ・ 各地において住環境の観察調査の実施（秋・冬）。
- ・ 各地において住民の活動量・健康度調査のために、ADL・心理スケールなどからなるコミュニティ環境自己点検の実施
- ・ 大槌町に対して、まちづくり支援センター設置の提言
- ・ 全仮設住宅団地の外観観察調査を、夏・冬の2回実施した。
- ・ 大槌町にて「仮設住宅すみこなし通信」を作成し仮設住宅全戸配布（月刊）
- ・ 町の（支援室主催の）ケース共有会議（毎月）にオブザーバーとして参加
- ・ 住民共助型活動や仮設団地内でのコミュニティビジネスのファシリテーション
- ・ 大槌町内でのコミュニティ支援体制を構築するべく、仮設住宅団地自治会長へのインタビュー調査、町内のボランティア団体・支援者へのインタビュー調査を実施。
- ・ 各地において高齢者等のサポート拠点に関する調査研究
- ・ 釜石にてオーダーメイド型バリアフリー改修の試行
- ・ 各地において移動！暮らし保健室活動
- ・ 大槌町にて介護予防体操DVDの製作に基づく介護予防体操の普及・啓発事業
- ・ 大槌町に対して、総合復興コミュニティ戦略の策定を提言

③ 主な結果

- ・ 自治組織の立ち上げやコミュニティ・ケア等により、単身高齢者等の孤立化、閉じこもりや虚弱化の問題は、いくらか改善されつつある。
- ・ しかし抜本的には解決されておらず、コミュニティによるケアを強化する有効な方策をさらに探る必要がある。
- ・ また外部からの支援体制が弱まって行くことを想定すると、各コミュニティの活動を早期に自律化させる必要がある。

3. 研究開発実施の具体的内容

（1）研究開発目標

① 仮設住宅地におけるコミュニティの再生

- ・ （H23）仮設住宅地のコミュニティ再生の核となる自治組織を立ち上げ、住民同士の共同生活のルールや地域の課題などを共有する。
- ・ （H24～）自治体側にコミュニティ・マネジメント支援体制を構築し、自主的な各種会合、イベント、共同作業等の企画・運営を通じて、コミュニティの

人間関係を実質的に育成する。

- ・（ゴール）リーダー的役割を担える住民に、コミュニティのマネジメント役を委ねていく。
- ② 住民自身の活動を通じたコミュニティ・インフラ整備
 - ・（H23）仮設住宅地の住民自治組織の地域連合組織となる「仮設住宅地運営協議会」を設置し、行政、近隣の既存集落自治会代表者、保健・医療・介護関係者、地元商工業者、その他分野の専門家も参加し、仮設住宅地群と既存集落等を包摂する、一定の広がりをもった地域のコミュニティ協議会を目指す。
 - ・ （H24～）この運営協議会の下で、コミュニティの課題発見的・共助的活動を展開していく。
 - ・（ゴール）住民のニーズを把握しながら、生活再建のための基礎条件、特にコミュニティ・インフラを整備していく。
- ③ 住民自治組織による復興まちづくり計画策定と仮設コミュニティの継承
 - ・ （H24～）住民自治組織がコミュニティ運営の主体的な担い手となっていくと同時に、本設復興まちづくりに向かって、自らの生活のイメージと、コミュニティ全体の空間的・社会的な復興イメージを喚起し、そのようなイメージに至る道筋を専門家や支援者の力を借りながら構想する。
 - ・（ゴール）仮設住宅地におけるコミュニティ・インフラ整備の取り組みは、復興後のまちづくりのモデルともなり、新たな本設復興市街地に継承していく。
- ④ デザイン・モデルの獲得と指針化による国内外への普及
 - ・（ゴール）以上の過程を整理分析し、次世代型の仮設住宅地コミュニティの物的・社会的なデザイン・モデルを構築し、指針として国内外に発信する。

（2）実施方法・実施内容

- ① 仮設住宅地におけるコミュニティの再生
 - ・（大槌町）まちづくり支援センター設置の提案を行った
 - 自治会長へのインタビュー調査、地元ボランティア団体、各種支援団体のインタビュー調査をもとに、大槌町に対してコミュニティ・マネジメント支援体制の構築を提言した。具体的には自主的な各種会合、イベント、共同作業等の企画・運営を通じて、コミュニティの人間関係を実質的に育成支援する仕組みづくりである。
 - ② 住民自身の活動を通じたコミュニティ・インフラ整備
- 【じゅう：住＝物的・空間的住環境】
- ・ 全仮設住宅団地の外観観察調査を、夏・冬の2回実施した。
 - ・ 住環境の課題をセルフヘルプで解決するためのノウハウをまとめた「仮設住宅すみこなし通信」を作成し12月末から仮設住宅全戸に配布（月刊）した。
- 【い：医＝医療・保健・保育・教育など対人的ケア、社会的サービス環境】
- ・（大槌・釜石）昨年度実施したコミュニティ環境自己点検活動を今年度も実施し経年的な変化を調査した。
 - ・ コミュニティ環境自己点検活動は、「仮設コミュニティ」による総合的なコミュニ

ティ・インフラ整備が高齢者本人の健康度や心理状態及びコミュニティにもたらす効果に関する分析と評価を行うべく、地元自治組織と連携して行うものである。

- ・ 町の（支援室主催の）ケース共有会議（毎月）にはオブザーバーとして参加

【しょく：食・職＝住民の自立的生活を支える社会経済的環境＝住民共助型活動を含め】

- ・ 住民共助型活動や仮設団地内でのコミュニティビジネスのファシリテーションを実施した。
 - コミュニティ住環境点検活動の「報告会」をきっかけとして、コミュニティ内の交流・自主的な活動を促進（懇親会・飲み会・新年会など）している。
- ・ （大槌町）大槌町内でのコミュニティ支援体制を構築するべく、仮設住宅団地の自治会長へのインタビュー調査を実施した。
- ・ （大槌町）大槌町内でのコミュニティ支援体制を構築するべく、町内のボランティア団体、支援者等へのインタビュー調査を実施した。

【い＋じゅう】

- ・ （釜石、大槌、遠野他）高齢者等のサポート拠点に関する調査研究
 - 中越地震の反省及び成果から幾つかの仮設団地にサポートセンターが設置されているが、現状は、厚労省の当初のねらい（高齢者に重心を置いたデイサービス機能に期待、仮設団地外も含めたサポート、仮設住宅住民のための集会施設＋αとしてのサポート機能）とは様子が異なっている。介護保険サービス（デイサービスや居宅介護支援等）の提供の有無、運営方法、施設管理方法、スタッフ体制、施設平面計画、立地等により、利用者、利用頻度、住民が享受しているサービス、展開されている活動、果たしている役割が異なると推測できる。そこで仮設コミュニティにおけるサポートセンターの実態を把握し、果たしている役割、展開される場面とその要因を探る。
- ・ オーダーメイド型バリアフリー改修の試行
 - 仮設住宅については、住戸周りの一部舗装や車イス用のスロープ等が付いたが、高齢者、障害者等へ配慮した住戸内設計には至らなかった。今後改修しやすい応急仮設住宅の基本プランへの反映が可能となるよう、また多様な高齢者（車いす利用者、虚弱など）が入居時の機能維持し、復興住宅へのスムーズな移行の実現に向けたQOLを追及できるよう、ケアマネ、リハ職等との連携による、仮設住宅のオーダーメイド型バリアフリー改修を試行した。

【い＋しょく】

- ・ 移動！暮らし保健室活動
 - 地域住民が自身の健康に関心を持ち、交流できる機会として実施。前述のコミュニティ環境点検評価とあわせて、仮設住宅における被災者個人の活動量やストレス、血管スティフネスや筋量、筋力を測定し、仮設住宅での体力の衰えや廃用症候群、高齢者の虚弱をとらえ、対策について話し合った。
- ・ 大槌町版介護予防体操DVDの製作に基づく介護予防体操の普及・啓発事業
 - 大槌町では調査の結果より、仮設住宅居住の高齢者に骨粗鬆症が多いことが分かった。高齢者の骨折の危険性が高まっていることを示しているだけでなく、身

体活動量が低下している可能性がある。適切な運動を提供する必要があること、また、住民やその支援者より「体操を定期的にやりたいと思うけれど、指導者がいないとどのような体操をしたらよいか分からない。」という声がある。そこで、仮設自治会等で取り組む、高齢者が楽しんでもできる介護予防体操を製作し普及することで、高齢者が継続的に運動することを支援する。

③ 住民自治組織による復興まちづくり計画策定と仮設コミュニティの継承

- ・ 大槌町に対して、総合復興コミュニティ戦略の策定を提言した。
 - 土木のインフラ整備事業・宅地造成事業が先行する一方、そうした新しいインフラ・宅地にどのような土地利用や生活・生業を展開できるのか、誰にとってもきわめて不確定・不透明な状況である。
 - 本研究で立ち上げを支援した諸活動を住民自身が進めていくことで、住民自身が将来の生活イメージ、地域イメージを、つくり出す必要がある。復興事業とは行政が国費でやってくれるもの、という受け身の姿勢から、自分たちで自分たちの未来をつくる・投資する気持ちへシフトする必要があり、そのためのフレームワークとして、総合復興コミュニティ戦略の策定を提言した。

(3) 研究開発結果・成果

① 仮設住宅地におけるコミュニティの再生

- ・ 大槌町企画調整班内に、コミュニティ担当職員が次年度から配置されることとなった。相当な額の復興予算がついていることから、コミュニティ側がしっかりと関わり、まちの復興とともに、コミュニティが再生される体制づくりを次年度から実施することとなった。まちづくり支援センターについても、その具体化を進めていく。

② 住民自身の活動を通じたコミュニティ・インフラ整備

【じゅう：住＝物的・空間的住環境】

- ・ 全仮設住宅団地の外観観察調査を、夏・冬の2回実施した。生活空間の使いこなしが進んでいることがわかった。コミュニティの核を形成するための、小さなコミュニティスペースの重要性について検討した。
- ・ 住環境の課題をセルフヘルプで解決するためのノウハウをまとめた「仮設住宅すみこなし通信」を作成し12月末から仮設住宅全戸に配布（月刊）した。

【い：医＝医療・保健・保育・教育など対人的ケア、社会的サービス環境】

- ・ コミュニティ環境自己点検活動の結果
 - 例えば対人関係と自治会活動との関係について、K 6（心理的苦痛の測定指標、K 6（the Kessler 6-item psychological distress scale）を従属変数にしたプロビット分析、SF - 8（健康関連 QOL 尺度）を従属変数にした線形回帰分析を実施したところ、友人や家族との交流だけでなく、自治会活動への参加が精神的な健康にプラスに働いていたことがわかってきた。
 - しかし自治会の活動の参加割合が、現状でも決して高いとはいえない状況である。今後も、自治会活動や地域での交流が、精神的な健康にどのような影響を及ぼ

すのか、注視していく必要がある。

- ・ 毎月実施される町の（支援室主催の）ケース共有会議に参加した結果、LSA、仮設支援員、保健師等の見守りやケアを担当するもの同士の、職能と情報共有の課題が見えてきた次年度は、その役割について詳しく分析していく。

【しょく：食・職＝住民の自立的生活を支える社会経済的環境＝住民共助型活動を含め】

- ・ 住民共助型活動や仮設団地内でのコミュニティビジネスのファシリテーションの結果、各仮設団地で自主的な活動が展開されている。
 - （大槌）巖岩仮設では、BBQや健康教室などを行った。次年度はバス旅行等も企画されている。安渡地区では新年会等の町会活動の立ち上げを支援し、今年度はさらに地域の輪が広がっている。中村仮設では手芸サークルやカラオケ大会など閉じこもり防止の取り組みが自発的に展開している。
- ・ （釜石）平田地区自治会では、「新しい公共創造基金」に応募し、コミュニティカフェの自主運営を実施している。

【い+じゅう】

- ・ （釜石、大槌、遠野他）高齢者等のサポート拠点に関する調査研究
 - 現在、サポートセンターを、高齢者のサポート機能、仮設住宅住民のための集会施設機能といったタイプごとの分類を行い、分析を実施している。
- ・ オーダーメイド型バリアフリー改修の試行
 - （釜石）釜石市の3件の仮設住宅の住民に対して、建築家、ケアマネ、リハ職等と連携した仮設住宅のオーダーメイド型バリアフリー改修を試行した。手すり等の改善により、台所へ立つ回数が増えたなど、改修の成果がでており、現在分析中である。

【い+しょく】

- ・ 移動！暮らし保健室活動
 - 大槌町47名、釜石平田地区25名が参加。運動量等を測定したところ、平均エネルギー消費量が2,000Kcal以下であり、これは都市部の半分以下であることが分かった。地元自治会は、健康づくり・散歩活動などの展開が必要であることを認識した。
- ・ 大槌町版介護予防体操DVDの製作に基づく介護予防体操の普及・啓発事業
 - 次年度のお披露目に向けた準備中である。

④ 住民自治組織による復興まちづくり計画策定と仮設コミュニティの継承

- ・ 次年度の第2期実施計画の策定に合わせて、大槌町では総合復興コミュニティ戦略を策定することとなった。

(4) 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2012年 4月9日	定例MTG	工学部11号館 GCOE会議室	・ コミュニティ・ケアサポート・チームの体制 ・ 今年度予定
2012年 4月24日	定例MTG	工学部8号館 619号室	・ 安渡コミュニティ環境点検結果検討と報告会の実施 ・ 袈岩新入居者歓迎会 ・ 釜石平田住民総会 ・ 大槌町総合復興コミュニティ戦略
2012年 5月2日	臨時MTG	工学部8号館 619号室	・ 安渡コミュニティ環境点検報告会
2012年 5月7日	定例MTG	工学部8号館 619号室	・ 全体体制について ・ 住宅復興アンケート ・ コミュニティ環境点検報告会と健康教室
2012年 5月14日		工学部14号館 1106号室	・ コミュニティ環境点検報告会と健康教室 ・ 平田コミュニティガーデンづくり、みんなの家の活用 ・ 復興住宅、産業振興 ・ RITEX第1回会議次第
2012年 5月28日	定例MTG	工学部8号館 619号室	・ みんなの家活用 ・ 仮設住宅バリアフリー改修 ・ NPO調査
2012年 6月4日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・ 移動！暮らしの保健室
2012年 6月11日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・ 大槌町住み替え意向調査
2012年 6月18日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・ 平田公園町仮設まちづくり協議会 ・ NPO調査 ・ サポートセンター調査 ・ 仮設住宅バリアフリー改修 ・ 健康チェック、活動量計測
2012年 6月25日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・ 仮設住宅バリアフリー改修 ・ 移動！暮らし保健室 ・ 仮設住宅住みこなし通信 ・ 自治会長・代表者調査
2012年 7月2日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・ 移動！暮らし保健室 ・ コミュニティ環境点検報告会 ・ RISTEX進捗状況報告
2012年 7月9日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・ 住みこなし通信 ・ グッドデザイン賞応募 ・ 移動！暮らし保健室 ・ コミュニティ環境点検報告会
2012年 7月23日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・ コミュニティ環境点検
2012年 7月30日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・ 大槌町悉皆調査報告 ・ 代表者ヒアリング ・ 仮設住宅バリアフリー改修 ・ 移動！暮らし保健室 ・ 大槌町ケース共有会議
2012年 8月6日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・ 釜石平田、遠野での調査 ・ 仮設住宅バリアフリー改修 ・ コミュニティ環境点検

			・自治会ヒアリング、NPO ・住環境点検 ・住みこなし通信
2012年 8月20日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・コミュニティ環境点検 ・大槌仮設団地代表者ヒアリング ・大槌町支援団体MTG ・福祉のまちづくり学会賞 ・大槌町ケース共有会議
2012年 8月27日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・大槌町ケース共有会議
2012年 9月3日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・大槌仮設団地代表者ヒアリング ・支援者ヒアリング ・平田交通量調査
2012年 9月10日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・平田交通量調査 ・平田、遠野でのヒアリング調査
2012年 9月18日	定例MTG	工学部8号館 619号室	・平田交通量調査 ・コミュニティ環境点検 ・年度中間報告全体会
2012年 9月24日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・平田交通量調査 ・コミュニティ環境点検 ・仮設団地談話室・集会室の利用状況 ・仮設住宅バリアフリー改修 ・遠野ヒアリング調査 ・全体会
2012年 10月1日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・コミュニティ環境点検
2012年 10月5日	全体会	工学部8号館 619号室	・2012年度後期の進め方について ・これまでの進捗報告
2012年 10月15日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・コミュニティ環境点検 ・RISTEX合宿、進捗状況報告
2012年 10月22日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・コミュニティ環境点検
2012年 10月29日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・コミュニティ環境点検 ・平田まちづくり協議会
2012年 11月5日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・コミュニティ環境点検
2012年 11月19日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・コミュニティ環境点検 ・介護予防体操
2012年 12月3日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・コミュニティ環境点検 ・移動！暮らし保健室 ・安渡地域新年会 ・RISTEX合宿
2012年 12月10日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・コミュニティ環境点検 ・移動！暮らし保健室 ・大槌仮設団地代表者ヒアリング、商業者調査 ・サポートセンター調査
2013年 1月21日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・介護予防体操 ・安渡地域での活動企画 ・大槌町仮設住宅悉皆調査
2013年 1月28日	定例MTG	工学部14号館 1106号室	・移動！暮らし保健室 ・介護予防体操 ・安渡地域の介入活動

2013年 2月4日	定例MTG	工学部1号館 210号室	・ 平田まちづくり協議会 ・ 移動！暮らし保健室 ・ 介護予防体操 ・ 安渡地域の介入活動
2013年 2月18日	定例MTG	工学部1号館 210号室	・ 大槌町健康体操 ・ 大槌町ケース共有会議 ・ コミュニティ環境点検 ・ 平田まちづくり協議会 ・ 来年度計画の全体会議
2013年 2月25日	定例MTG	工学部1号館 210号室	・ 大槌町健康体操 ・ 大槌町ケース共有会議 ・ 安渡地域の勉強会 ・ 来年度計画の全体会議
2013年 3月11日	定例MTG	工学部1号館 210号室	・ 被災地支援ネットワーク ・ コミュニティ環境点検 ・ 平田での活動 ・ 大槌高校の復興計画づくり ・ 仮設住宅復興会議
2013年 3月18日	定例MTG	工学部1号館 210号室	・ 来年度年間計画 ・ 大槌町仮設住宅悉皆調査
2013年 4月1日	全体会	工学部14号館 806号室	・ 調査結果の知見と、今後の調査目的と方針について討論

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- 当活動の成果について、静岡県を始め、津波防災計画等を策定する自治体からの問い合わせに対して、そのノウハウを提供した。

5. 研究開発実施体制

(1) 統括計画調整グループ

① (大方潤一郎) 東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻

② 実施項目

- 各事業の統括とマネジメント（進捗状況管理）、本研究開発事業全体の統括とマネジメントを実施。
- 各仮設住宅地自治組織代表者、関係機関、団体代表者等からなる、仮設住宅運営協議会の設置と運営の支援を実施。
- 住民自治組織による復興まちづくり計画策定について提言した。

(2) コミュニティ活動マネジメント・チーム

① 小泉秀樹 東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻

② 研究開発実施項目

- 各仮設住宅地の自治組織（住民協議会等）の立ち上げを提案し実現
- コミュニティ活動マネジメントにつながる住環境点検活動プログラムの検討
- 住環境点検WSで指摘された課題について、自治組織が連携して取り組みたいと考えるイベントの支援
- 自治会長や支援団体等へのインタビュー調査を実施（コミュニティ活動・生活再建に対する住民ニーズと各仮設住宅地の人的・物的資源の把握）
- 自治体によるまちづくり支援センター機能の設置を提言した。

(3) . コミュニティ空間マネジメント・チーム

① 大月敏雄 東京大学大学院 工学系研究科 建築学科

② 研究開発実施項目

- 自力で対応すべき項目についてはDIYを行うためのアドバイスをまとめた「仮設住宅住みこなし通信」を12月から毎月発行・大槌町民へ全戸配布。
- 仮設団地内で実施された空間整備の効果を、未整備の状態との比較を含め、秋・冬の2回測定・評価した。
- 高齢者等のサポート拠点に関する調査研究
- オーダーメイド型バリアフリー改修の試行

(4) . コミュニティ・ケアサポート・チーム

① (永田智子) 東京大学大学院 東京大学大学院医学系研究科 地域看護学分野

② 研究開発実施項目

- 昨年度開発したコミュニティ環境自己点検シートをもとに、今年度も仮設団地において調査を実施した。
- 生活援助員(LSA=Life Support Adviser)による仮設住宅での見守り訪問活動について月1回開催される情報共有のための会議(ケース共有会議)に出席した。
- 大槌町版介護予防体操DVDの製作に基づく介護予防体操の普及・啓発事業を行った。
- コミュニティ・マネジメント・チームと連携して、移動!暮らし保健室活動を実施した。

6. 研究開発実施者

代表者・グループリーダーに「○」印を記載

(1) 統括計画調整グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	大方潤一郎	オオカタ ジュンイチロウ	東京大学都市工学科	教授	研究運営統括 (代表)
	後藤 純	ゴトウ ジュン	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	事業運営統括補佐
	永田 智子	ナガタ サトコ	東京大学大学院 医学系研究科	准教授	コミュニティ・ケア
	松永 篤志	マツナガ アツシ	東京大学大学院 医学系研究科	D1	コミュニティケアチー ム運営補佐
	森反 章夫	モリタン アキオ	東京経済大学	教授	コミュニティ組織
	大月 敏雄	オオツキ トシオ	東京大学建築学科	准教授	コミュニティ・スペー ス
	富安 亮輔	トミヤス リョウスケ	遠野市・ 東京大学建築学科	コーディネー タ・博士課程	コミュニティ・スペー スチーム運営統括補佐

	趙 晟恩	チョウ ソンウン	東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻	特任研究員	コミュニティ・スパー スチーム運営統括補佐
	牧野篤	マキノ アツシ	東京大学教育学部	教授	コミュニティ・ケア/ マネジメント
	小泉秀樹	コイズミ ヒデキ	東京大学都市工学科	准教授	コミュニティ・マネジ メント
	似内 遼一	ニタナイ リョウイチ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	D2	コミュニティ・マネジ メントチーム統括補佐
	新 雅史	アラタ マサフミ	学習院大学	非常勤講師	コミュニティ・マネジ メントチーム統括補佐
	鈴木るり子	スズキ ルリコ	岩手看護短期大学	教授	研究運営統括
	狩野 徹	カノウ トオル	岩手県立大社会福祉学部	教授	研究運営統括
	岸 恵美子	キシ エミコ	帝京大学 医療技術学部看護学科	教授	復興計画策定支援

(2) コミュニティ・マネジメント・サポート・チーム

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	小泉 秀樹	コイズミ ヒデキ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	准教授	グループ統括 コミュニティ事業
	似内 遼一	ニタナイ リョウイチ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	D2	コミュニティ活動支援 統括
	金井 利之	カナイ トシユキ	東京大学法学部	准教授	コミュニティの資源管 理支援
	森反 章夫	モリタン アキオ	東京経済大学	教授	コミュニティ組織
	牧野篤	マキノ アツシ	東京大学教育学部	教授	生涯学習、子どもの教 育支援
	鈴木るり子	スズキ ルリコ	岩手看護短期大学	教授	食事等の生活介助支援
	新 雅史	アラタ マサフミ	学習院大学	非常勤講師	住民調査・ニーズ評 価・設計・解析
	後藤 純	ゴトウ ジュン	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	市民事業
	井堀 幹夫	イホリ ミキオ	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	住民自治活動・NPO 運営支援
	永田 智子	ナガタ サトコ	東京大学大学院 医学系研究科	准教授	高齢者の食生活支援
	後藤智香子	ゴトウ チカコ	アーバンデザインセンタ柏	ディレクター	集会場運営支援
	堤 可奈子	ツツミ カナコ	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	コミュニティ活動支援
	神原 康介	カンバラ コウスケ	東京大学大学院	D1	コミュニティ活動支援

			工学系研究科都市工学専攻		
	趙 美香	チョウ ミカ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M 1	コミュニティ活動支援
	フェリペ・ デ・ソーザ		東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	客員研究員	コミュニティ活動支援
	松田 悠暉	マツダ ユウキ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M 1	コミュニティ活動支援
	的場 弾	マトバ ダン	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M 1	コミュニティ活動支援
	白澤 翔平	シラサワ ショウヘイ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M 1	コミュニティ活動支援
	今場 雅規	コンバ マサノリ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M 1	コミュニティ活動支援
	三宅亮太郎	ミヤケ リョウタロウ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M 1	コミュニティ活動支援
	永田麻由子	ナガタ マユコ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M 1	コミュニティ活動支援
	安井真太郎	ヤスイ シンタロウ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M 1	コミュニティ活動支援
	Giancarlo Troncoso		東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	D 2	コミュニティ活動支援

(3) コミュニティ・スペース・サポート・チーム

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	大月敏雄	オオツキ トシオ	東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻	准教授	グループ統括
	富安亮輔	トミヤス リョウスケ	遠野市・東京大学建築学科	D2	住環境点検統括
	趙 晟恩	チョウ ソンウン	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	特任研究員	住環境点検統括
	岡本玲子	オカモト レイコ	岡山大学大学院 保健学研究科	教授	住民調査・ニーズ評価・設計・解析
	西出和彦	ニシデ カズヒコ	東京大学建築学科	教授	住宅地設計
	牧野篤	マキノ アツシ	東京大学教育学部	教授	子どもケア空間
	狩野徹	カノウ トオル	岩手県立大学社会福祉学部	教授	福祉施設
	小泉秀樹	コイズミ ヒデキ	東京大学都市工学科	准教授	オープンスペース
	廣瀬雄一	ヒロセ ユウイチ	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	バリアフリー
	岡本和彦	オカモト カズヒコ	東京大学建築学科	助教	サポートセンター

	笈田幹弘	オイダ ミキヒロ	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	居住環境
	有本 梓	アリモト アズサ	東京大学大学院 医学系研究科	助教	医療施設
	深井 祐紘	フカイ ヨシヒロ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	D1	住みこなし通信作成
	吉田 雅史	ヨシダ マサシ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M2	住環境点検調査
	生山 翼	オイヤマ ツバサ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M2	住環境点検調査
	栗野 悠	アワノ ユウ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M2	住環境点検調査
	朴 晟源	パク ソンウォン	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M2	住環境点検調査
	齊藤 慶伸	サイトウ ヨシノブ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M1	住環境点検調査
	水上 和哉	ミズカミ カズヤ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M1	住環境点検調査
	金 晃敏		東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M1	住環境点検調査
	栗原 理沙	クリハラ リサ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M1	住環境点検調査
	芦澤 健介	アシザワ ケンスケ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M1	住環境点検調査
	篠本 快	シノモト カイ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M1	住環境点検調査
	井本佐保里	イモト サオリ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	D2	住環境点検調査

(4) コミュニティ・ケア・サポート・チーム

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	永田 智子	ナガタ サトコ	東京大学大学院 医学系研究科	准教授	グループ統括
	寺本 千恵	テラモト チエ	東京大学大学院 医学系研究科	M2	コミュニティ環境点 検調査
	新 雅史	アラタ マサフミ	学習院大学	非常勤講師	コミュニティ環境点 検調査
	牧野 篤	マキノ アツシ	東京大学教育学部	教授	住環境点検統括
	岡本 玲子	オカモト レイコ	岡山大学大学院 保健学研究科	教授	住環境点検統括

	村嶋 幸代	ムラシマ サチヨ	大分県立看護大学	教授	住民調査・ニーズ評価・設計・解析
	岡本 和彦	オカモト カズヒコ	東京大学建築学科	助教	住宅地設計
	笈田 幹弘	オイダ ミキヒロ	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	子どもケア空間
	井堀 幹夫	イホリ ミキオ	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	福祉施設
	松永 篤志	マツナガ アツシ	東京大学大学院 医学系研究科	D 1	大槌町版介護予防体操DVDの製作
	成瀬 昂	ナルセ タカシ	東京大学大学院 医学系研究科	助教	コミュニティ環境点 検調査
	蔭山 正子	カゲヤマ マサコ	東京大学大学院 医学系研究科	助教	コミュニティ環境点 検調査
	阪井 万裕	サカイ マサヒロ	東京大学大学院 医学系研究科	M 2	コミュニティ環境点 検調査
	岩崎 りほ	イワサキ リホ	東京大学大学院 医学系研究科	D 1	コミュニティ環境点 検調査
	櫻井 美里	サクライ ミサト	東京大学大学院 医学系研究科	M 1	コミュニティ環境点 検調査
	山本 裕子	ヤマモト ユウコ	東京大学大学院 医学系研究科	D 1	コミュニティ環境点 検調査
	三浦 由佳	ミウラ ユカ	東京大学大学院 医学系研究科	M 2	コミュニティ環境点 検調査

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

7-1. ワークショップ等

なし

7-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

なし

7-3. 論文発表（国内誌 7 件、国際誌 0 件）

<学会論文>

- 似内遼一、後藤純、小泉秀樹、大方潤一郎「応急仮設住宅入居後の住環境点検活動の意義と課題 - 岩手県大槌町を対象に」 『都市計画論文集』 47(2012), pp.367-372.
- 朴晟源、篠本快、大月敏雄、北原玲子、井本佐保里、深井祐紘、栗野悠「指定区画外駐車を誘発・抑制する諸要素について仮設住宅団地における駐車スペースに関する研究（その二）」 『都市住宅学』 79(2012).
- 篠本快、朴晟源、大月敏雄、北原玲子、井本佐保里、深井祐紘、栗野悠「仮設住宅団地における駐車場の配置計画について」 『都市住宅学』 79(2012).
- 深井祐紘、大月敏雄、北原玲子、井本佐保里、朴晟源、篠本快、栗野悠「コミュニティと掲示板の管理との関係に関する考察-仮設住宅における掲示板に関する調査研究」 『都市住宅学』 79(2012).

<学位論文>

- 寺本千恵「The relationships between social support and psychological distress among affected people living in temporary housing at 10 months after the Great East Japan Earthquake」（東京大学・健康科学看護学専攻・地域看護学分野・修士論文）2013
- 的場弾「仮設住宅団地のコミュニティ形成に関する研究-大槌町の仮設住宅団地における自治組織の形成と活動に着目して」（東京大学・都市工学専攻・修士論文）2013
- 安井真太郎「東日本大震災後の仮設住宅団地住民における生活の質に関する研究-団地内生活サービス施設の利用に着目して?」（東京大学・都市工学専攻・修士論文）2013

7-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

①招待講演（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

・

②口頭講演（国内会議 7 件、国際会議 0 件）

- ・ 園田千佳、西出和彦、大月敏雄、岡本和彦、小泉秀樹、趙晟恩、似内遼一、深井祐紘「仮設住宅での生活における課題の建築的要因に関する研究-I県O町における仮設住宅コミュニティ住環境点検ワークショップを通して-」日本建築学会学術講演梗概集、E-1、pp.45-48、2012年9月
- ・ 深井祐紘、西出和彦、大月敏雄、岡本和彦、趙晟恩、北原玲子、井本佐保里、

富安亮輔、朴晟源、吉田雅史、栗野悠、齊藤慶伸「仮設住宅における外部空間への働きかけに関する研究-1自治体内全仮設住宅団地に対する調査を通じて-」

日本建築学会学術講演梗概集、E-1、pp.9-12、2012年9月

- ・ 齊藤慶伸、栗原理沙、富安亮輔、井本佐保里、趙晟恩、岡本和彦、大月敏雄、狩野徹、西出和彦「K市H仮設住宅団地におけるケアゾーンの空間利用に関する研究」日本建築学会学術講演梗概集 E-1、pp.13-16、2012年9月
- ・ 富安亮輔、井本佐保里、大月敏雄、西出和彦、岡本和彦、趙晟恩、小泉秀樹、後藤純、狩野徹「コミュニティケア型仮設住宅の提案と実践 -コミュニティケア型仮設住宅に関する研究 その1-」日本建築学会学術講演梗概集、E-1、pp.41-44、2012年9月
- ・ 永田智子、寺本千恵、新雅史、松永篤志、村嶋幸代「東日本大震災で被災したA町仮設住宅住民の生活と健康 対象者の概況（第1報）」第71回日本公衆衛生学会総会抄録集、p477、2012年10月
- ・ 寺本千恵、新雅史、松永篤志、永田智子、村嶋幸代「東日本大震災で被災したA町仮設住宅住民の生活と健康 団地別の状況（第2報）」第71回日本公衆衛生学会総会抄録集、p477、2012年10月
- ・ 新雅史、永田智子、寺本千恵、松永篤志、村嶋幸代「東日本大震災で被災したA町仮設住宅住民の生活と健康 対人関係と自治会活動の影響（第3報）」第71回日本公衆衛生学会総会抄録集、p477、2012年10月
- ・ 富安亮輔、若手建築計画研究集会（パネルディスカッション）『震災後の生活環境再構築の現場と建築計画学-ビジョンとバージョンをつなぐー』、「コミュニティケア型仮設住宅の設計監理監修とその後の住環境サポート」、日本建築学会、2012年9月

③ ポスター発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

7-5. 新聞報道・投稿、受賞等

① 新聞報道・投稿

- ・ シルバー産業新聞 2012年8月10日、「IOGリレーオピニオン⑧長寿社会の住まいと移動」
- ・ 読売新聞 2012年9月16日、「医療と介護「仮設」で実現」
- ・ 日経電子版 2013年1月10日、「成熟社会のモデルを作る」
- ・ シルバー産業新聞 2013年2月10日、「IOGリレーオピニオン⑭多世代が輝ける超高齢化社会を」
- ・ 読売新聞 2013年3月19日、「大震災2年 ケア型仮設 効果は上々」

② 受賞

- ・ 似内遼一、他 2012年度 東京大学大学院工学系研究科長賞
- ・ 遠野市、社会福祉法人遠野市社会福祉協議会、遠野町3区自治会、岩手県立大学社会福祉学部福祉経営学科、東京大学高齢社会総合研究機構、2012年度、日本福祉のまちづくり学会・市民活動賞
- ・ 2012年度人間環境学会 学会賞「遠野市仮設住宅 希望の郷「絆」」
- ・ 岩手県遠野市 +(株)リンデンバウム遠野+遠野市社会福祉協議会+岩手県立

大学＋東京大学高齢社会総合研究機構

- ・ グッドデザイン賞復興デザイン賞「仮設住宅団地【釜石・平田地区コミュニティケア型仮設住宅団地】」

岩手県＋東京大学高齢社会総合研究機構＋岩手県釜石市＋平田仮設団地まちづくり協議会＋東京大学大学院都市工学専攻大方・小泉計画研究室＋東京大学大学院建築学専攻西出・大月研究室＋岩手県立大学狩野研究室

- ・ 都市住宅学会賞業績賞「岩手県釜石市平田総合公園におけるコミュニティ・ケアによる仮設まちづくりの実践」

釜石市平田第6仮設団地／平田公園まちづくり協議会＋釜石市＋岩手県＋岩手県立大学＋東京大学高齢社会総合研究機構

③ その他

7-6. 特許出願

①国内出願（0件）